

2023年11月期 第2四半期 決算説明資料



ファーストブラザーズ株式会社【3454】

2023年7月7日

2023年11月期第2四半期 エグゼクティブサマリー

2023年11月期第2四半期 連結業績

売上総利益は4,338百万円（前年同期比86.7%増）
 経常利益は2,726百万円（同170.7%増）を達成

- 当第2四半期に比較的利益率の高い賃貸不動産の売却が完了したことから、前年同期比では大幅な増益となりました。
- 経常利益は通期業績予想数値を上回っておりますが（達成率108.0%）、金融環境や不動産市況の変動、物価上昇や観光需要の変動、先行投資による費用計上等が損益に及ぼす影響など不確定要素がある点を考慮し、保守的に業績予想数値は据え置いております。

投資銀行事業（賃貸不動産ポートフォリオ）

賃貸不動産の残高（簿価）は655.3億円（前年同期比61.2億円増）
 賃貸粗利は12.3億円（同1.3億円増）を達成

- 一部の物件売却を進めつつ、優良な新規物件の取得により残高を積み上げました。
- 既存物件の収益性も向上し、安定収益である賃貸粗利も増加しました。

施設運営事業（ホテル・旅館等の運営）

施設運営事業の売上総利益は41百万円となり黒字化を達成

- 新規施設の取得を進めるとともに、行動制限の緩和やインバウンド需要の回復などから運営するホテル・旅館の収益も向上し、前年同期の売上総損失62百万円から売上総利益41百万円へと黒字化を達成しました。
- 一方で、のれん償却額等の費用負担もあり、営業損益は129百万円の損失となりましたが、営業損益においても黒字化を目指してまいります。

投資銀行事業 賃貸不動産の保有運用(1)

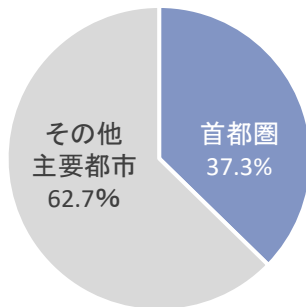
賃貸不動産ポートフォリオ/概要

当社グループは、中長期的に安定収益が見込める賃貸不動産の取得を進め、これをポートフォリオとして保有運用しております。賃貸不動産ポートフォリオの残高、簿価、時価、含み益、NOI利回りは以下の通りです。

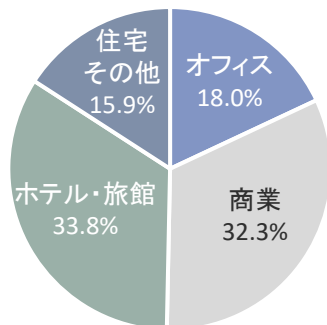
| (百万円) | 2021/11期 (2Q末時点) | 2022/11期 (2Q末時点) | 2023/11期 (2Q末時点) | 増減額 (前年同期比) | 増減率 (前年同期比) |
|---------------|---------------------|---------------------|---------------------|----------------|----------------|
| 残高※1 (物件数) | 57,446 (63物件) | 59,009 (90物件) | 64,955 (95物件) | +5,946 | +10.1% |
| 期中増加額※1 | 7,231 | 1,367 | 5,445 | - | - |
| 期中減少額※1 | 5,403 | 3,778 | 5,089 | - | - |
| 簿価※2 | 57,955 | 59,404 | 65,530 | +6,126 | +10.3% |
| 時価※3 | 68,249 | 69,880 | 79,959 | +10,079 | +14.4% |
| 含み益※3 | 10,294 | 10,475 | 14,428 | +3,953 | +37.7% |
| NOI利回り※4 | 6.9% | 7.2% | 7.2% | - | - |

賃貸不動産ポートフォリオの所在地別、用途別内訳 (残高ベース)

所在地別



用途別※5



貸借対照表上の流動・固定区分

賃貸不動産は、ポートフォリオの入れ替え時に機動的に売却できるように貸借対照表において流動資産に計上していますが、比較的利回りが高い物件は長期間に亘り賃貸収益を獲得する意図から固定資産に計上しています。

| (百万円) | 流動資産 | 固定資産 |
|---------------|------------------|------------------|
| 残高※1 (物件数) | 45,887 (60物件) | 19,068 (35物件) |
| 簿価※2 | 46,817 | 18,713 |
| 時価※3 | 57,954 | 22,004 |
| 含み益※3 | 11,137 | 3,291 |
| NOI利回り※4 | 6.9% | 7.8% |

※1 残高及び期中増減額は取得価格ベース。増加額には、M&Aに伴う増加額、開発案件竣工に伴う増加額を含む。
 ※2 簿価は取得価格に取得時の取引コスト、期中の資本的支出及び減価償却を反映し調整したもの
 ※3 時価は直近の鑑定評価額またはそれに準ずる評価額であり、含み益は簿価との差額
 ※4 安定稼働時の想定年率(賃料から管理費等を控除したキャッシュベースの純収益÷取得価格)
 ※5 複数の用途がある不動産については主な用途で集計

投資銀行事業 賃貸不動産の保有運用(2)

賃貸不動産ポートフォリオ/賃貸収益

優良な賃貸不動産の積み上げを進め、そこから安定的に得られる賃貸粗利^{※1}を増加させる方針です。

なお、ポートフォリオ入れ替えに伴う物件売却や、バリューアップ活動に伴う空室ロス等から、賃貸粗利は一時的に減少する場合があります。

| | 2020/11期 2Q (6カ月合計) | 2021/11期 2Q (6カ月合計) | 2022/11期 2Q (6カ月合計) | 2023/11期 2Q (6カ月合計) |
|--------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 賃貸粗利 ^{※1} (百万円) | 953 | 1,186 | 1,179 | 1,247 ^{※2} |

※1 賃貸不動産から得られる純収益(NOI(非経常的要因を除く)－減価償却費)

※2 安定稼働時のNOI利回り(P.2参照)と賃貸粗利(2023/11期2Q)の関係について

| | |
|--|----------|
| ・安定稼働時の当期 NOI | 2,331百万円 |
| (64,777百万円(期首・2Q末平均保有物件残高)×7.2%(期首・期末平均NOI利回り))×6カ月/12カ月 | |
| ・当該期間の減価償却費 | △417百万円 |
| ・バリューアップ活動に伴う空室ロス及び期中取得物件の賃料等 | △667百万円 |
| ----- | |
| ・賃貸粗利(2023/11期2Q) | 1,247百万円 |

賃貸不動産ポートフォリオ/売却収益(ポートフォリオ入れ替え)

取得した賃貸不動産については、バリューアップ活動を実施しながら運用するとともに、賃貸不動産ポートフォリオ入れ替えの観点から、マーケットで適宜売却を行いキャピタルゲインを享受しています。当第2四半期においては比較的利益率の高い物件の売却が完了したこと等から、前年同期比では売却粗利は大幅増となりました。

| (百万円) | 2020/11期 2Q (6カ月合計) | 2021/11期 2Q (6カ月合計) | 2022/11期 2Q (6カ月合計) | 2023/11期 2Q (6カ月合計) |
|--------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 売却額 ^{※1} | 4 | 11,300 | 5,344 | 8,212 |
| 売却粗利 ^{※1} | 0 | 2,562 | 1,136 | 2,960 |

※1 仕掛販売用不動産(賃貸不動産開発用地等)の売却を含む。

■売却額、売却粗利の変動について

ポートフォリオ入れ替えの観点から十分なバリューアップが実現できた物件や良好な条件での買い手が現れた場合等に一部物件を売却しております。売却に際しては、バリューアップの状況等を勘案して売却物件を選定しておりますが、個々の物件は比較的金額が大きく、また売買の実行は様々な要因により影響を受けます。そのため、四半期単位や年度単位の売却額は、その売却実行の多寡により大きく変動します。また、物件毎に売却粗利率が異なるため、売却粗利も同様に変動します。

投資銀行事業 資金調達 / 投資運用事業 / 施設運営事業

賃貸不動産ポートフォリオ/資金調達の状況

賃貸不動産の取得の際には借入を行うため、投資の進展とともに借入残高は増加する傾向にあります。

なお、借入は原則として長期で行うとともに、金利スワップ※1を活用して金利の一部固定化を実施しています。

※1 金利スワップ契約の時価は金利市場の動向により変動しますが、金利スワップ契約は金利上昇リスクを回避する目的で支払金利を長期固定化しているものであり、キャッシュ・フローの安定化に寄与しています。

| | 2020/11期 (期末時点) | 2021/11期 (期末時点) | 2022/11期 (期末時点) | 2023/11期 (2Q末時点) |
|--------------|--------------------|--------------------|--------------------|---------------------|
| 借入残高(百万円)※2 | 45,976 | 50,917 | 52,461 | 52,992 |
| (内ノンリコースローン) | 598 | 3,420 | 5,059 | 4,940 |
| レバレッジ※3 | 81.8% | 82.2% | 80.5% | 80.9% |
| 加重平均残存期間 | 12.1年 | 10.2年 | 9.7年 | 9.8年 |
| 加重平均金利※4 | 0.75% | 0.99% | 0.98% | 1.0% |
| 金利固定化割合 | 44.3% | 29.5% | 23.2% | 22.7% |

※2 賃貸不動産取得のための借入金

※3 借入残高÷賃貸不動産簿価

※4 金利固定化前

投資運用事業/不動産アセットマネジメント

当第2四半期においては、ファンドの主な投資対象である比較的規模の大きな物件は、当社グループが自己勘定で取得している中小型物件と比べ取得競争が激しい状態が続いており、当社グループが主体的に投資活動を行うファンドでの新規取得は控えました。なお、当社グループが主体的に投資活動を行うファンドでの新規案件発掘は引き続き行っている他、当社グループが保有する賃貸不動産ポートフォリオの一部の物件をシードアセットとしてファンドレイズすることも検討しております。

| (百万円) | 2020/11期 (期末時点) | 2021/11期 (期末時点) | 2022/11期 (期末時点) | 2023/11期 (2Q末時点) |
|---------|--------------------|--------------------|--------------------|---------------------|
| 受託資産残高 | 11,820 | 22,958 | 22,958 | 18,108 |
| 期中増加額※1 | 21,570 | 11,587 | 0 | 0 |
| 期中減少額※1 | 23,333 | 0 | 0 | 4,850 |

※1 増加額・減少額にはアセットマネジメント契約の締結・終了を含む。

施設運営事業

当社グループは、賃貸不動産としてホテル・旅館等を積み上げておりますが、これら施設の賃貸運用にとどまらず、当社グループ自らがホスピタリティサービスを提供することを目的として、ホテル・旅館等のオペレーション(施設運営)事業を展開しております。当第2四半期においては、新規施設の取得を進めるとともに、行動制限の緩和やインバウンド需要の回復などから運営するホテル・旅館の収益も向上し、売上総損益は黒字化(41百万円)を達成しました。一方で、のれん償却額等の費用負担もあり129百万円の営業損失となりました。

2023年11月期第2四半期 決算概要(1)

連結損益計算書(要約)

当第2四半期においては、賃貸不動産ポートフォリオの積み上げを進めるとともに、複数の物件売却を実行し、前年同期比で増収増益となりました。また、第1四半期に連結子会社(孫会社)の株式売却により特別利益を計上しております。

| (百万円) | 2021/11期 2Q | 2022/11期 2Q | 2023/11期 2Q | 前期比 | 業績予想 進捗率 |
|-----------------|-------------|-------------|-------------|---------|-------------|
| 売上高 | 14,176 | 8,600 | 11,987 | +39.4% | 61.8% |
| 売上総利益 | 3,772 | 2,323 | 4,338 | +86.7% | 73.7% |
| 販売費及び一般管理費 | 904 | 1,129 | 1,271 | +12.6% | - |
| 営業利益 | 2,867 | 1,193 | 3,066 | +156.9% | 91.7% |
| 経常利益 | 2,615 | 1,007 | 2,726 | +170.7% | 108.0% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 1,748 | 593 | 2,214 | +273.2% | 110.7% |

売上総利益の内訳

| (百万円) | 2021/11期 2Q | 2022/11期 2Q | 2023/11期 2Q | 前期比 |
|---------|-------------|-------------|-------------|---------|
| 投資運用事業 | 151 | 72 | 81 | +11.8% |
| 投資銀行事業 | 3,602 | 2,270 | 4,205 | +85.3% |
| 不動産売却粗利 | 2,562 | 1,136 | 2,960 | +160.6% |
| 不動産賃貸粗利 | 1,010 | 1,096 | 1,231 | +12.4% |
| その他 | 28 | 37 | 13 | -65.0% |
| 施設運営事業 | - | ▲62 | 41 | N/A |
| その他事業 | 17 | 42 | 9 | -77.4% |
| 売上総利益合計 | 3,772 | 2,323 | 4,338 | +86.7% |

販売費及び一般管理費の内訳

| (百万円) | 2021/11期 2Q | 2022/11期 2Q | 2023/11期 2Q | 増減額 |
|--------------|-------------|-------------|-------------|------|
| 人件費 | 551 | 609 | 683 | +73 |
| 地代家賃 | 95 | 97 | 87 | -9 |
| 支払手数料・報酬 | 99 | 198※ | 200 | +2 |
| 租税公課 | 75 | 43 | 67 | +23 |
| のれん償却 | - | 50 | 57 | +7 |
| その他 | 83 | 130 | 174 | +44 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 904 | 1,129 | 1,271 | +141 |

※ 子会社株式取得に伴うアドバイザー費用(62百万円)が含まれています。

2023年11月期第2四半期 決算概要(2)

連結貸借対照表(要約)

賃貸不動産はポートフォリオ入れ替え時に機動的に売却できるよう原則として流動資産(販売用不動産)に計上しておりますが、比較的利回りが高い物件は長期間に亘り賃貸収益を獲得する意図から固定資産に計上しております。なお、いずれの資産区分においても減価償却費を計上しております。

| 連結/資産の部 (百万円) | 2021/11期 | 2022/11期 | 2023/11期 2Q | 増減額 |
|---------------|----------|----------|-------------|--------|
| 流動資産合計 | 62,655 | 61,666 | 61,744 | +78 |
| 現金及び預金 | 10,766 | 7,306 | 7,621 | +315 |
| 信託預金 | 740 | 921 | 1,060 | +139 |
| 販売用不動産 | 44,908 | 46,956 | 46,866 | -89 |
| 仕掛販売用不動産 | 4,275 | 3,479 | 3,494 | +15 |
| その他 | 1,963 | 3,002 | 2,700 | -301 |
| 固定資産合計 | 19,896 | 25,977 | 27,307 | +1,330 |
| 資産合計 | 82,551 | 87,643 | 89,052 | +1,408 |

| 連結/負債・純資産の部 (百万円) | 2021/11期 | 2022/11期 | 2023/11期 2Q | 増減額 |
|-------------------------|----------|----------|-------------|--------|
| 負債合計 | 61,741 | 65,997 | 65,622 | -375 |
| 流動負債合計 | 8,870 | 5,585 | 5,751 | +165 |
| 短期借入金 | 3,454 | 1,156 | 91 | -1,065 |
| 1年内返済予定長期借入金 | 1,890 | 2,339 | 2,509 | +169 |
| ノンリコース1年内返済予定長期借入金 | 0 | 119 | 18 | -101 |
| その他 | 3,525 | 1,969 | 3,132 | +1,162 |
| 固定負債合計 | 52,871 | 60,411 | 59,870 | -540 |
| 長期借入金 | 44,384 | 50,678 | 51,329 | +651 |
| ノンリコース長期借入金 | 3,420 | 4,940 | 4,921 | -18 |
| その他 | 5,066 | 4,793 | 3,619 | -1,173 |
| 純資産合計 | 20,809 | 21,646 | 23,429 | +1,783 |
| 株主資本合計 | 20,669 | 21,469 | 23,265 | +1,795 |
| その他 | 140 | 176 | 164 | -12 |
| 負債純資産合計 | 82,551 | 87,643 | 89,052 | +1,408 |
| ネットD/ELシオ ^{※1} | 1.85 | 2.14 | 1.94 | - |

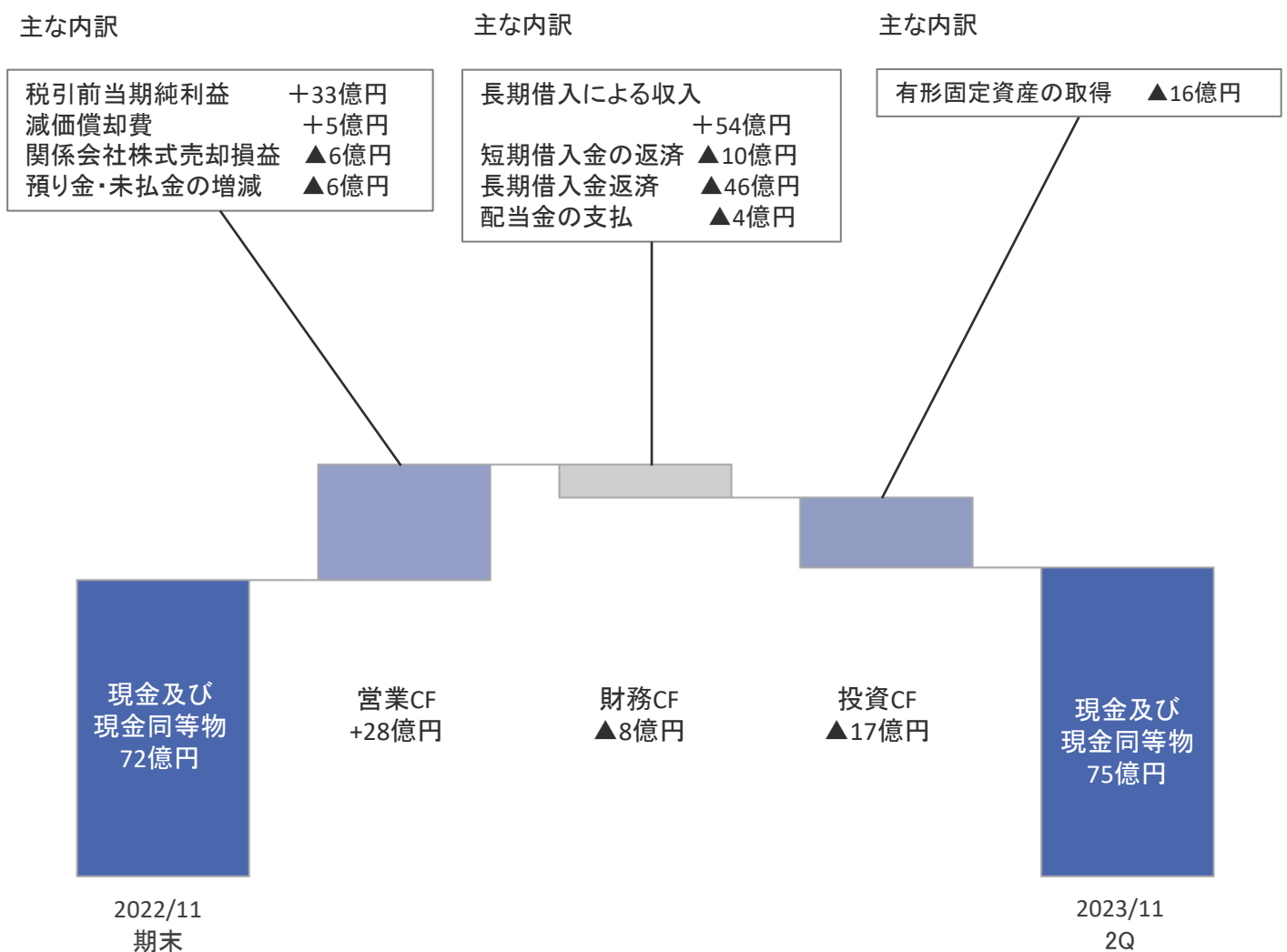
※1 ネットD/ELシオ = (ノンリコースローンを除く有利子負債 - (現金及び預金 + 信託預金)) ÷ 株主資本

2023年11月期第2四半期 決算概要(3)

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期においては、営業キャッシュ・フローは税引前当期純利益の計上等により28億円のプラス、財務キャッシュ・フローは賃貸不動産の売却に伴う長期借入金の期限前返済等により8億円のマイナス、投資キャッシュ・フローは有形固定資産の取得による支出等により17億円のマイナスとなりました。

各キャッシュ・フローの増減内訳は下記の通りです。



2023年11月期業績予想について

当社グループは、「最高のプロフェッショナルであり続ける」というグループ企業理念のもと、不動産投資案件に対する目利きや豊富な投資経験から、十分な投資リターンが見込める投資案件の取得を進めるとともに保有する賃貸不動産の収益性を向上させる施策を実施し、ポートフォリオ全体を成長・拡大させてまいります。また、賃貸不動産の一部を売却し、バリューアップ等により得られた含み益を実現することで相応の売却利益の獲得を目指してまいります。ホテル・旅館等の施設運営事業においても、グループ企業理念のもと、顧客に寄り添った満足度の高いホスピタリティサービスを提供することを通じて、当該事業を主力事業の一つに成長させるべく積極的な事業展開を進めてまいります。

2023年11月期の連結業績見通しにつきましては、賃貸不動産ポートフォリオ入れ替えに伴う物件売却が前期比で増加する見込みであること等から、売上高19,400百万円、営業利益3,345百万円、経常利益2,525百万円、親会社株主に帰属する当期純利益2,000百万円を見込んでおります。

| (百万円) | 2022/11期 通期実績 | 2023/11期 通期予想 | 前期比 | 2023/11期 2Q実績 | 進捗率 |
|-----------------|------------------|------------------|--------|------------------|--------|
| 売上高 | 14,284 | 19,400 | +35.8% | 11,987 | 61.8% |
| 売上総利益 | 4,089 | 5,890 | +44.0% | 4,338 | 73.7% |
| 投資運用事業 | 222 | 80 | -63.6% | 81 | 100.6% |
| 投資銀行事業 | 3,766 | 5,760 | +52.9% | 4,205 | 73.0% |
| 施設運営事業 | ▲46 | 44 | N/A | 41 | 93.4% |
| その他 | 147 | 4 | -97.0% | 9 | 221.3% |
| 営業利益 | 1,816 | 3,345 | +84.2% | 3,066 | 91.7% |
| 経常利益 | 1,356 | 2,525 | +86.1% | 2,726 | 108.0% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 1,180 | 2,000 | +69.4% | 2,214 | 110.7% |

当第2四半期の連結業績は、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益とも、通期の業績予想数値を上回っておりますが、以下の理由から、保守的に業績予想数値は据え置いております。

- ・足元では賃貸不動産の取得売却及び期中運用とも堅調に推移しているものの、金融環境や不動産市況の変動が損益に影響を及ぼす可能性があること
- ・ホテル・旅館等の施設運営事業において、インフレに伴う運営コストの上昇や宿泊需要の変動等の不確定要素があること
- ・新規案件の取得や、既存の賃貸不動産及び運営施設のリノベーション等を進める過程で、先行的に費用が計上される場合があること等

なお、今後の業績推移に応じ、修正の必要が生じた場合は、速やかに公表いたします。

当社グループの業績の特徴 / 東証の市場区分見直しへの対応等

当社グループの業績の特徴について

当社グループは、事業活動を通じて利益及び株主資本を増加させる方針ですが、現時点では賃貸不動産ポートフォリオ入れ替えに伴う物件売却時の売却売上及び売却利益の割合が相対的に高いため、業績については以下の特徴があります。

①売上高よりも売上総利益を重視

当社グループは、ポートフォリオ入れ替えの観点から一部の賃貸不動産を売却し含み益を顕在化させることにより、新たな賃貸不動産の取得原資として活用することでポートフォリオ全体を持続的に成長させております。その過程で、物件の売却額が売上高として多額に計上されますが、当該売却額はポートフォリオ入れ替えの過程で結果的に生じるものであります。そのため、当社グループは売上高よりも売上総利益を重視しています。

②短期の業績変動

販売費及び一般管理費の大半が固定費であるのに対し、売上・利益については賃貸不動産の売却時に多額に計上される傾向があるため、四半期及び通期業績は、売却の如何によって大きく変動する可能性があります。

また、物件毎に売却時の利益率が異なるため、当社グループの連結業績の売上に対する各段階利益率も比較的変動する傾向があります。

なお、不動産取引は個々の事情に左右されるものの、目立った季節性(例:上期に売上偏重等)はありません。

東証の市場区分見直しへの対応について

当社は、2022年4月に行われた東証の市場区分の見直しに際して、プライム市場に移行することがより一層の企業成長に資するとの考えから、上場維持基準の適合に向けた計画を策定の上、プライム市場を選択しております。

2023年4月1日に上場維持基準に関する経過措置の見直しが実施されておりますが、当社としては従来通り、プライム市場の上場維持基準を満たすべく、計画に掲げた各種取り組みを推進する方針であります。一方、企業価値向上を目指す中、株主様をはじめステークホルダーの皆様への影響等も踏まえ、スタンダード市場の再選択についても慎重に検討を重ねております。

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社の株価はPBR1.0倍を下回る水準で推移しておりますが、その要因として、現状の期間損益において不動産売却収益の割合が比較的高く、また、売却は不定期に実現するため期間損益のボラティリティが大きいことが影響していると考えております。そのため、安定的な収益である賃貸収益や施設運営事業による収益を増大させていくことで、期間損益のボラティリティを小さくし、ひいてはPBRを高めていきたいと考えております。

株主還元 / 配当政策

配当の基本方針

- 配当は年1回(期末)
- 短期業績の変動によらず継続的・安定的に実施
- 会社の成長に応じて中長期的に増加させる
- 株主資本配当率(DOE)2.0%が目安

【1株当たり配当額の計算式】

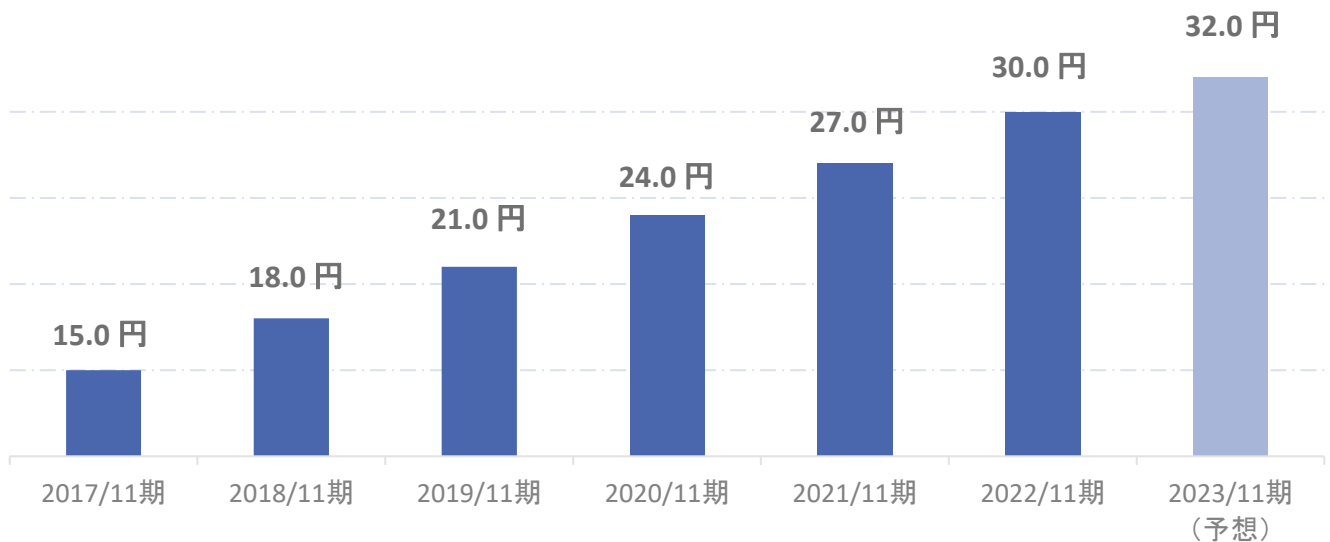
連結株主資本(期初・期末平均) × 2.0% ÷ 期末発行済株式数(自己株式を除く) を目安として決定

配当の基準としては、毎期の利益に連動する配当性向ではなく、バランスシート上の項目である連結株主資本を基準とすることで、短期的な業績の変動によらず継続的・安定的に配当を実施する方針です。

当期純利益が黒字かつ利益配当額以上であれば連結株主資本は每期増加するため、会社の成長に応じて中長期的に配当を増額することができます。

なお、自社株買いについては、機動的な株主還元の手法の一つとして認識しています。

1株あたり配当金の推移



※2023年11月期は1株あたり32.0円の配当を予定しております。

株主還元 / 株主優待制度

株主の皆様の日ごろのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、中長期的に保有していただける株主様を増やすことを目的として、以下の通り、株主優待制度を導入しております。

株主優待制度(概要)

毎年11月30日現在の株主名簿に記録された一定の条件を満たす株主様を対象として「ファーストブラザーズ・プレミアム優待倶楽部」を導入しております。

【ファーストブラザーズ・プレミアム優待倶楽部の内容】

保有株式数及び保有期間に応じて、株主優待ポイントを進呈いたします。

株主様は、株主様限定のWEBサイト「ファーストブラザーズ・プレミアム優待倶楽部」において、そのポイントを当社グループに縁のある地域の名産品、Amazonギフト券、食品、電化製品、旅行・体験等に交換できます。

【ポイント表】

1年以上継続保有者※

1年未満保有者

| 保有株式数 | 優待内容 |
|----------|-----------------------------|
| 500株以上 | 5,000ポイント |
| 600株以上 | 6,000ポイント |
| 700株以上 | 7,000ポイント |
| ～ | 以降、100株保有増加毎に1,000ポイントを追加進呈 |
| 5,000株以上 | 50,000ポイント |

| 保有株式数 | 優待内容 |
|----------|-----------------------------|
| 3,000株以上 | 5,000ポイント |
| 3,100株以上 | 6,000ポイント |
| 3,200株以上 | 7,000ポイント |
| ～ | 以降、100株保有増加毎に1,000ポイントを追加進呈 |
| 5,000株以上 | 25,000ポイント |

※ 毎年5月31日および11月30日の株主名簿に同一株主番号で連続3回以上記録されること

【お申込み方法】

対象となる株主様には毎年2月初旬に「株主の皆様へ株主優待のお知らせ」をご郵送いたします。

「株主の皆様へ株主優待のお知らせ」に記載されている手順に従ってWEBサイト「ファーストブラザーズ・プレミアム優待倶楽部」へ会員登録後、WEBサイト内の商品選択画面からご希望の商品をお申し込みいただけます。

優待制度の詳細につきましては下記サイトをご参照ください。

<https://firstbrothers.premium-yutaiclub.jp/>

当社について

会社概要

| | |
|-------|--|
| 会社名 | ファーストブラザーズ株式会社 |
| 設立 | 2004年2月4日 |
| 所在地 | 東京都千代田区丸の内二丁目4番1号 丸の内ビルディング25階 |
| 資本金 | 100,000,000円 |
| 証券コード | 3454 (東証 プライム) |
| 役職員数 | 193名 (2023年5月31日現在 グループ連結) |
| 主要子会社 | ファーストブラザーズキャピタル株式会社 ファーストブラザーズ投資顧問株式会社 ファーストブラザーズディベロップメント株式会社 株式会社東日本不動産 フロムファーストホテルズ株式会社 |

当社グループの主な事業

賃貸不動産の保有運用

中長期的に安定した収益が見込める賃貸不動産を厳選して取得し、これらを積み上げることで数多くの賃貸不動産(賃貸不動産ポートフォリオ)を保有運用しています。個々の賃貸不動産は、その潜在力が発揮できるよう、様々な手法を駆使してその価値を向上させます。また、所在する地域発展に資する場合等には、新規の開発も行います。これらの賃貸不動産ポートフォリオは適宜入れ替えを実施し、バリュアアップ等によって得られた含み益を顕在化させつつ、新たな賃貸不動産の取得原資に活用することでポートフォリオ全体を持続的に拡大・成長させています。

不動産アセットマネジメント

主に機関投資家の資産運用を行う事業であり、比較的大規模(数百億円規模)な不動産を投資対象とし、インカムゲインとともにキャピタルゲインの獲得を目指す運用を行います。また、投資家が主体的に行う不動産投資活動において、期中運営のアセットマネジメント業務を受託することも行っています。

再生可能エネルギー

当社グループが有するノウハウを活用して、様々な再生可能エネルギーの開発・運営に取り組んでおります。特に、出力が安定しておりベース電力として期待の高い地熱発電を中心に開発に取り組んでいます。

ホテル・旅館等の施設運営事業

顧客に寄り添う質の高いホスピタリティサービスを提供することを目的として、ホテル・旅館等のオペレーション(施設運営)事業を展開しております。

プライベートエクイティ投資

社会的意義のある事業やスタートアップ企業等、様々な事業や企業に投資を行っています。

【ご留意いただきたい事項】

- 本資料は、当社グループに関する情報の提供を目的として作成されておりますが、内容について当社グループがいかなる表明・保証を行うものでもありません。
- 本資料の作成に際し、当社グループは細心の注意を払っておりますが、掲載した情報に誤りがあった場合や、第三者によるデータの改ざん、データのダウンロード等によって生じた障害等に関し、事由の如何を問わず一切責任を負うものではありません。
- 本資料に記載された内容は、当社グループが合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、外部及び内部環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき当社グループが判断したものです。これらには外部及び内部環境の変化等のリスクや不確実性が内在しているため、実際の業績は本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なる可能性があります。
- 今後、新しい情報や事象の発生等があった場合においても、当社グループは、本資料に記載された内容の更新・修正を行う義務を負うものではありません。
- 本資料は、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。実際の投資に際しては、本資料に全面的に依拠することなく、ご自身の決定で投資判断を行っていただくようお願いいたします。

お問い合わせ先

ファーストブラザーズ株式会社 経営企画室IR担当
03-5219-5370
IR@firstbrothers.com